

京田辺市文化振興計画の評価と今後の展望についてくまとめ

文化芸術を取り巻く現状	第4次総合計画における文化振興の基本方針	現計画の基本目標と施策展開	アンケート調査結果と懇話会での意見（令和4年度）	今後の方向性
<p>【社会情勢】</p> <p>○人口減少と少子高齢化進行、人生100年時代の到来 ⇒今後ますます少子高齢化が進行することから、文化芸術の分野においても、担い手や後継者不足につながるため、人材育成のための積極的な取組が必要。</p> <p>○グローバル化、情報通信技術（ICT）の進展とライフスタイルや価値観、学びの多様化 ⇒グローバル化の進展に伴い、国内外の文化芸術に関わる研究者や芸術家などの相互交流が進んでいる。情報通信技術（ICT）の進展・普及により、固定された時間や場所にとらわれず、国内外の交流が促進され、文化芸術活動においても多様性が生まれている。ライフスタイルや価値観も多様化していることから、学ぶ内容や手法の多様化が見込まれる。</p> <p>○大規模自然災害の発生と感染症への対応 ⇒新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術においても自粛や縮小が求められるなど、以前のような活動が難しくなっている。一方で、情報通信技術（ICT）を活用して、「新しい生活様式」に対応した、公演の動画配信やオンラインを用いた新たな手法などを取り入れることで、文化芸術活動や鑑賞等の機会を拡大するとともに、表現手法の革新が期待される。</p> <p>○SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組の推進 ⇒文化芸術についても、誰もが等しく文化芸術に関わることのできる社会を目指すなど、SDGsを推進していくことが求められている。</p>	<p>【基本方針】</p> <p>●市民が気軽に文化にふれることができる機会づくりや個性豊かな文化活動に対する支援に取り組むとともに、これからの文化振興を担う人材の育成、文化情報の発信を進めます。</p> <p>●伝統文化や文化財の保存と継承に努めるとともに、文化資源を市民共通の財産として、その活用に努めます。また、引き続き、市史編さん事業を進めます。</p> <p>●質の高い鑑賞空間や多様な文化活動を行うことができる機能を備え、多彩な事業の展開を通じて文化ネットワークの中心となる文化施設の整備を進めます。</p>	<p>基本目標 1 市民が気軽に文化にふれ、活動できる機会の充実</p> <p>（1）文化に親しむ機会の充実 （2）学習機会・発表機会の提供 （3）学校教育などにおける体験機会の充実</p>	<p>アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 京田辺市は文化活動が盛んなまちだと思わない理由について、「身近に文化・芸術鑑賞の機会が少ないから」が最も高い。 新型コロナウイルスの影響により、鑑賞・観覧の頻度が「減った」が5割以上。 文化・芸術を「オンラインで鑑賞した」が1割以上。 文化・芸術を鑑賞した場所は「京田辺市外」が7割以上。 コロナ禍収束後の鑑賞方法は「会場での鑑賞」が最も高い。 現在、文化・芸術活動を「行っている」が14%。 活動成果を発表する場について『不満』が4割以上。 子どもたちや若者が文化・芸術に親しむ機会として重要なものは「学校における公演・美術展などの鑑賞体験充実」「学校における演劇・美術などの創作体験充実」が高い。 <p>懇話会意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 商業施設で市民団体やサークルによる音楽等のステージを行い好評。特に、ストリートピアノの設置の取り組みは大変人気が高い。小・中学校の生徒が演奏してくれる場や機会を増やしたい。 市内大型商業施設のスペースを活用し、音楽ふれあい広場を開催。買い物の機会に気軽に参加できるため、親子で芸術文化に興味を持っていただく機会にしたい。ストリートピアノを設置する場を増やしたい。 全市民第九を初開催する。将来的には全市民が「歓喜の歌」を口ずさめることを目標としたい。 フリーハンド画家のワークショップ、「元号」の書道展等を開催したが好評であった。 小学校では文化庁の予算を活用し芸術鑑賞会を開催しているが、より充実させたい。 	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響により、鑑賞・観覧、文化活動の頻度が大きく減った。その中で、オンラインを使用した鑑賞や活動が増えている。今後も、文化に親しむ機会として、オンラインを用いた手法を取り入れる必要がある。 子どもや若者が文化・芸術に親しむために重要なものとして、学校を通じた体験を充実させることが重要であることが伺えた。小さい頃から、文化・芸術に触れることのできる機会をつくり、体験させることが必要である。
<p>【国の動向】</p> <p>○「文化芸術振興基本法」の改正（2017年6月、改正後「文化芸術基本法」） ⇒観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の文化芸術に関連する分野の施策についても新たに法律の範囲に取り込む 等</p> <p>○「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の制定（2018年6月） ⇒障害者による文化芸術活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進する 等</p> <p>○「文化財保護法」の改正（2018年6月、2021年4月） ⇒無形文化財及び無形民俗文化財の登録制度を新設し、幅広く文化財の裾野を広げて保存・活用を図る 等</p> <p>○「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」の制定（2020年4月） ⇒文化振興を観光振興と地域活性化につなげ、これによる経済効果が文化振興に再投資される好循環を創出する 等</p> <p>○「文化芸術推進基本計画（第2期）」（2023～2027年度）の策定（2022年度）</p> <p>○2023年5月、文化庁の京都府移転</p>	<p>【施策展開】</p> <p>①文化にふれる機会の充実・文化活動の支援・人材育成</p> <p>②文化情報の発信</p> <p>③文化資源の活用</p> <p>④文化施設の整備と活用</p>	<p>基本目標 2 文化活動を行う市民や団体に対する支援</p> <p>（1）文化団体などの活動支援 （2）文化ネットワークの構築 （3）大学との連携、交流機会の確保 （4）公共施設の利便性の向上</p>	<p>アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化・芸術活動を行う市民や団体への支援『不満』が4割以上。 京田辺市の文化・芸術を発展させるために重要なこと「文化・芸術活動を行う市民や団体を支援すること」が22%。 <p>懇話会意見</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ前は大学から小学校にアウトリーチで演奏活動を行い好評。学生の活動の場としても有意義だった。コロナ後には市民・子ども達が大学に来て、音楽に触れ、学ぶ機会を設けたい。 音楽家によるNPO法人を発足し、子ども向け活動等を行っている。アウトリーチを実施するには予算がかかる。相手側とのマッチングが必要。 学生と市、団体の連携を密にすれば、さらに学生が音楽を演奏出来る場が増える。 文化や芸術、音楽の学生は活動や披露の場を探しており、地域貢献できれば、充実感を得られる。学生の音楽等の活動が地域にニーズがあることに驚いた。 京田辺市は、文化・芸術・音楽への関心が高く、活動が活発かつレベルが高い。趣味を超えたレベルにある。 アートギャラリーや演奏会場などで大学・女子大施設を活用してもらえればよい。 住みやすいまち＝文化水準が高いと言うデータもあるため、文化振興に対する行政の支援が地域活性化に繋がれば良い。 大学がある特性を活かして、芸術や音楽に留まらず演劇等も取り入れていくべき。 やはり支援で一番ありがたいのが補助金だが、仲間集めや情報発信、披露・展示の場提供、ニーズとのマッチングの支援があるとありがたい。 	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の文化・芸術を支える団体に対して、補助金や仲間集め、情報発信などの支援を今後も充実させる。 大学や団体との連携を強化し、市民や学生の文化・芸術活動を活性化させる。
		<p>基本目標 3 文化施設の整備と活用</p> <p>（1）文化施設の整備 （2）文化活動の場づくり</p>	<p>アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 京田辺市は文化活動が盛んなまちだと思わない理由「文化施設が整っていないから」が2番目に高い。 身近な施設や場所での文化・芸術イベントの開催『不満』が約5割。 文化・芸術活動を行っていない理由「身近なところに活動する施設や場所がない」が18%。 	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民アンケートでは文化施設が整っていないことに不満を感じているが、市内には大学等を含め多くの文化施設、活動場所があることを周知し、活用しやすい環境を整えていくことが必要である。

文化芸術を取り巻く現状	第4次総合計画における文化振興の基本方針	現計画の基本目標と施策展開	アンケート調査結果と懇話会での意見（令和4年度）	今後の方向性
		基本目標4 文化情報の発信 (1)文化情報の収集・提供 (2)文化交流の推進	アンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> 文化・芸術イベントに関する情報の充実『不満』が約5割。 文化・芸術に関する情報の入手方法「広報紙や市ホームページなど市役所の発信する情報」が最も高い。一方、10・20・30歳代では「SNS」の割合が高い。 市の文化・芸術に関する情報提供『不十分』が約5割。 求められている情報は「京田辺市内の展覧会や公演などの情報」が最も高い。 懇話会意見 ○身近に文化鑑賞する機会が少ない人は、文化に関する情報発信や提供が不足しているため。広報だけでなく、市民にわかりやすく情報を発信できる場が必要。 ○アンケート結果を確認し情報をいかに発信していくか、どのように文化を親子に浸透させていくかが重要。 ○単独で活動するだけではなく各分野の交流が重要（観光・国際・農業分野等）	まとめ <ul style="list-style-type: none"> 市民の多くが情報の充実について不満を抱えている。多くの市民は広報紙やホームページを活用しているが、若年層はSNS等の媒体を活用していることがうかがえるため、今までの媒体とともに、ICT等を活用した情報発信を行っていくことが必要である。
		基本目標5 文化活動を担う人材の育成 (1)芸術家の発掘・育成 (2)人材育成の仕組みづくり (3)文化に親しむ子どもの育成	アンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> 地域伝統文化を継承していくために必要な取り組み「担い手を育成する」が45%。 京田辺市の文化・芸術を発展させるために重要なこと「文化・芸術に携わる人材の育成と資質向上のための研修を行うこと」が16%。 懇話会意見 ○レベルの高い高校生や大学生の演奏はニーズが高い。「安い」のもメリットはあるが、知名度やプロの芸能といった文化鑑賞に対するニーズを生かす工夫が重要。 ○特に大住地域は、音楽活動が盛ん。桃園小学校にはジュニアバンドがあり、大住中学校に吹奏楽部や合唱部がある。大住シンフォニックバンドもある。 ○学校での芸術鑑賞会は毎年開催しているが、予算がある時は外部からプロを招聘し実施している。 ○団体として展覧会の開催だけを重視していた点を反省している。絵画を教えるなど人材育成に取り組んでいきたい。学校に出向くことなどもできる。	まとめ <ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴い、担い手不足や後継者不足が問題となっている。小さい頃から文化・芸術に触れ、継続して活動していくことが担い手育成にもつながっていくため、子どもの頃からの人材育成を見据えた活動機会の充実が必要である。
		基本目標6 文化財やお茶文化などの文化資源の活用 (1)文化財の保存・継承 (2)観光・産業振興との連携 (3)郷土の歴史に親しみ学ぶ機会の充実 (4)お茶文化の普及啓発	アンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> 京田辺市は文化活動が盛んなまちだと思ふ理由「伝統文化や文化財が継承・活用されているから」の割合が最も高い。 京田辺市の伝統文化や文化財は、「酬恩庵一休寺」「甘南備山」「とんど」の認知度が高く、参加・見学した割合も高い。 地域の伝統文化行事への参加状況は、「参加していない」の割合が6割以上。 地域の伝統文化を継承していくために必要な取り組みは、「伝統文化を広くPRする」、「小中学校における伝統文化に関する学習を充実する」の割合が高い。 地域の伝統文化や文化財に興味を持つために必要な取り組みは「文化財巡りなど伝統文化や文化財を活かしたイベントを開催する」「新聞やテレビなどのメディアを通して伝統文化や文化財をPRする」「伝統文化や文化財のパンフレットを配布する」の割合が高い。 京田辺市の文化資源は「特産品の玉露」の回答が最も高い。 懇話会意見 ○正月恒例行事の甘南備山初登りは毎年500～600人が参加。今回で59年目となり今後も続けたい。 ○伝統行事は、今後参加したいと思う人をどう参加させるかが鍵となる。特に、子供達に京田辺市の歴史を伝えたい。そのため観光協会等の団体とのコラボも実施。 ○全市民を対象とした歴史伝統に関するイベントを考えたい。 ○文化財を保存、継承出来る場所（施設）を設けるよう、長年、市に対して要望。 ○天理山・一休寺・黙々寺をまとめたような公園や散策コースがあれば良い。 ○京田辺はお茶＝宇治茶の産地としての伝統や文化がある。 ○特産品の京田辺玉露を多くの人たちに知ってほしいが、飲める場が少ない。 ○茶問屋（茶専門店）に関わらず、多くの店で玉露を取り扱う場を増やしたい。 ○農村地域の伝統・文化行事である「とんど焼き」を子供に伝えていきたい。小学校から見学のオファーもある。 ○とんど焼きには真竹が必要で、竹林の手入れも重要。	まとめ <ul style="list-style-type: none"> 文化活動が盛んだと思ふ理由として、伝統文化や文化財が継承・活用されていることの割合が高く、文化財や文化資源が京田辺市の強みとなっている。この強みを広くPRし、情報を発信していくとともに、子どもの頃から、伝統文化などに触れる機会を設け、市の文化活動の活性化につなげていくことが必要である。 文化資源としてのお茶（玉露、てん茶等）の活用。 無形民俗文化財の担い手不足、活動衰退への対応 寺社仏閣等の管理者不足への対応 観光分野との連携を深め、保存・管理の視点だけでなく、文化資源や文化財の活用、高付加価値化を図る必要がある。

文化芸術を取り巻く現状	第4次総合計画における文化振興の基本方針	現計画の基本目標と施策展開	アンケート調査結果と懇話会での意見（令和4年度）	今後の方向性
			○普賢寺地域には、竹にちなんだ伝統・文化行事である二月堂のお水取りで使用される竹を送り出す「竹送り」もある。	